

競技上の注意

1. 競技規則については（財）日本ソフトテニス連盟発行「ソフトテニスハンドブック」に準ずる。マッチはすべて7回ゲームとする。
2. マッチ前の練習は1分以内とする。ただし、進行の都合で省略することがある。
3. 参加選手は（財）日本ソフトテニス連盟公認2級審判員の資格を有するものとする。また、日本ソフトテニス連盟の登録者とする。（大会参加申込時にJSTA会員登録システムの画面をプリントアウトしたものを提出）
4. プログラムの都道府県名・学校名・ベンチ入り指導者名・選手名・学年にミスプリントがあった場合は、所定の用紙を用い、開会式終了までに「競技受付」へ提出する。
5. 選手変更・ベンチ入り指導者変更・監督変更・2級審判取得追加報告については、所定の用紙を用い、原則として開会式終了までに「競技受付」へ届け出て、競技委員長の承認を受ける。ただし、急病等の場合に限り、当日の7：30に届け出て、承認を受ける。
6. コート割り及び進行の予定は別表の通りとする。ただし、天候や進行の都合によって変更することがある。団体戦においては、2面あるいは3面同時に使用して対戦を行うこともある。
7. 競技用具・服装等については次の条件を守る。
 - （1）ユニフォームは（財）日本ソフトテニス連盟が公認したメーカーのテニス用品を着用する。
 - （2）シューズは（財）日本ソフトテニス連盟が公認したテニスシューズを使用する。
 - （3）ラケットは（財）日本ソフトテニス連盟の公認マークが添付されたものを使用する。
 - （4）マッチ中のジャージ、トレーナー等の着用は原則として認めない。
 - （5）出場選手はすべて上段に都道府県名、下段に学校名を表示したゼッケンを背中に付ける。
ゼッケンの大きさはA4版を標準とし、文字は単色・横書き6文字以内で日本文字とする。この大きさであれば染め抜きでもよい。
8. 大会使用球は、男子が「アカエム」、女子が「KENKO」とする。
9. 各対戦ともAプレーヤーは、本部指定のマークを左腰下に付ける。
10. ベンチはプログラム番号の小さなチーム（ペア）が北側、プログラム番号の大きなチーム（ペア）が南側とする。
注）コートの北側・南側については、プログラムに記載されている会場図で確認しておく。
11. マッチ中はアンパイヤーの指示に従いプレーする。（競技規則第15条）
12. マッチ中は連続的にプレーする。マッチの進行に支障となる状態でパートナー同士の打ち合せをしたり、または休息をしてはいけない。（競技規則第15条）
13. マッチ中は互いにマナーを尊重し、過度のかけ声または相手を不快にする発声をしない。（競技規則第15条）
14. プレーヤーはプレーの進行及び判定に関し、アンパイヤーに対して異議を申し立て、又は結果を不服として故意にプレーを中断してはならない。（競技規則第40条）
15. 個人戦について
 - ① 選手到着票（個人戦）は所定事項を記入し、進行表の第3試合までのプレーヤーは7：30～8：00に、第4試合以降のプレーヤーは7：30～9：00に、会場の「競技受付」へ提出する。
 - ② 第1試合のプレーヤーは、マッチ開始10分前（8：20）までに「コート主任席」に集合し、トスを行なう。第2試合以降のプレーヤーは、前のマッチが開始されたら「コート主任席」に集合し、トスを行ない、トスを行なった後は当該コート付近で待機する。
 - ③ 前のマッチが終了し、アンパイヤーが整列してから5分経過してもプレーヤーが出場しない場合は、警告1回とし、3回をもって失格とする。（競技規則第42条）
 - ④ 審判は、第2試合以降については敗者審判とする。ただし、準々決勝以降は主催者側の審判員が行なう。

16. 団体戦について

- ① 3組の点取り対抗戦とし、2点以上を得たチームを勝ちとする。1・2回戦は勝敗が決定しても3番目のマッチを行う。3回戦以降は2点先取とし、2面展開の場合、勝敗が決定次第、進行中のマッチの順番に関係なく打ち切りとする。(大会運営規則第9条)
- ② 選手到着票(団体戦)は所定事項を記入し、進行表の第1試合のチームは7:30~8:00に、第2試合のチームは7:30~9:00に、会場の「競技受付」へ提出する。
- ③ 選手・監督は、指定された時刻に団体選手集合場所に集合する。なお、第1試合は第6コートに集合すること。また、集合時刻は、第1試合は8:20とし、第2試合以降は、放送で案内する。
- ④ 集合時刻を過ぎ、5分経過しても選手・監督が集合しない(揃わない)場合は、3ペアそれぞれに対して警告1回とする。(ただし、次の対戦には持ち越さない) また、10分経過した場合は、警告2回と扱い、15分経過した場合は警告3回となり失格とする。
- ⑤ オーダー提出は、両チームが集合場所に集合した時点で行う。(アンパイヤーへ両チームが同時に提出)
- ⑥ サービスとレシーブの選択及びサイドの選択についてはコートで行う。
- ⑦ 審判は、すべて主催者側の審判員が行なう。

17. 監督およびベンチ入り指導者について

- ① IDカードを必ず着用し、服装は選手に準じ、清潔を旨とし、試合に際しては礼儀正しく品位を傷つけないようにする。
- ② 個人戦では、登録されたベンチ入り指導者1名がコート内の指定位置(ベンチ)に入ることを認める。やむをえない事情の場合を除き、マッチ中に一度ベンチを出たら戻れない。また、マッチ中のベンチ入り指導者の交代は認めない。なお、アンパイヤーへの質問は一切できない。
- ③ 団体戦では、必ず監督がコート内の指定位置(ベンチ)に入る。なお、アンパイヤーに対する質問はチームの監督又はそのプレーヤーのいずれかのみができる。(競技規則第40条2)
- ④ マッチ中の助言はチェンジサイズとファイナルゲームに入る前のみ許容された時間内で行うことを認める。それ以外の助言は、警告とする。(競技規則第38条)
※45秒でホイッスルを鳴らすので、プレーヤーは速やかにプレーに入ること。55秒を超えてもプレーに入らない場合には「レッツプレイ」のコールをし、それに従わない場合は警告とする。
- ⑤ 指定位置(ベンチ)は、大会本部が定めた位置とする。なお、私有の椅子の持ち込みは禁止する。

18. その他の注意事項

- ① コート内での通信機器(携帯電話・トランシーバー等)の使用は認めない。
- ② 審判が注意を喚起した事項は、次回から警告の対象とする。
- ③ 怪我や痙攣を起こした選手に対して、ペア・監督・ベンチ入り指導者以外の学校関係者による介護や処置を認める。
- ④ マッチ中、プレーヤーの荷物等は各コートのベンチあるいはその周辺に置く。
- ⑤ 各学校の横断幕等を会場内に張る場合には、指定された場所(第1・6・7・12・13・16コート脇のフェンス)以外は禁止とする。
- ⑥ コートによっては、応援の場所が狭いので、お互い譲り合って応援すること。コートすぐ後ろの場所(観客席等)は、該当校の応援のために空けておくこと。
- ⑦ 練習については指定されたコート、場所、時間のみで行う。
- ⑧ 会場内通路、周辺公園、空き地等における練習は一切禁止とする。
- ⑨ 各学校持ち込みテントの利用は、禁止とする。